

HCG シンポジウムのためのテンプレートファイル

HCG シンポジウムのためのサンプルファイル

電子 花子[†] 情報 太郎^{††} 通信 次郎^{††}

[†] 第一大学工学部 〒 105-0123 東京都港区山田 1-2-3

^{††} 大阪株式会社開発部 〒 565-0456 大阪府吹田市河田 4-5-6

E-mail: [†]hanako@denshi.ac.jp, ^{††}{taro,jiro}@jouhou.co.jp

あらまし 電子情報通信学会 HCG シンポジウム原稿用の p_{La}T_EX 2_ε クラスファイル, ieicejsympo.cls について説明します. 本クラスファイルに基づく記述の仕方, 注意事項等を説明します. 本クラスファイルは, アスキー版 p_{La}T_EX 2_ε に基づいて作成しています.

キーワード L^AT_EX 2_ε, アスキー版 p_{La}T_EX 2_ε, タイピングの注意事項

Template file for the HCG Symposium

Sample file for the HCG Symposium

Hanako DENSHI[†], Jiro JOHO^{††}, and Ichiro TSHUSIN^{††}

[†] Faculty of Engineering, First University Yamada 1-2-3, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan

^{††} R&D Division, Osaka Corporation Kawada 4-5-6, Suita-shi, 565-0456 Japan

E-mail: [†]hanako@denshi.ac.jp, ^{††}{taro,jiro}@jouhou.co.jp

Abstract IEICE (the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers) provides a p_{La}T_EX 2_ε class file, named ieicejsympo.cls for the HCG Symposium of IEICE. This document describes how to use the class file, and also makes some remarks about typesetting a document by using p_{La}T_EX 2_ε. The design is based on ASCII Japanese p_{La}T_EX 2_ε.

Key words p_{La}T_EX 2_ε class file, typesetting

1. ま え が き

HCG シンポジウム原稿を ieicejsympo.cls を利用して執筆する際に必要なことを解説します. 原稿執筆上の注意事項は, 「電子情報通信学会 HCG シンポジウム執筆要項」を参照してください.

コンパイルに必要なクラスファイルは, ieicejsympo.cls だけです. sympo.tex は, このクラスファイルを使用した場合のサンプルファイルかつテンプレートファイルです.

2. 図表の貼付

本原稿内に図表を貼り付ける場合は, 以下の例を参考にしてください. 図 2 として図を貼り付けています. この例では Illustrator で作成した pdf ファイルを図として貼り付けていますが, graphicx パッケージを使う場合は, 一般的な jpeg ファイル, png ファイルなどもそのまま貼り付けられます. なお, このサンプルファイルは pdf ファイルの作成に dvipdfmx コマ

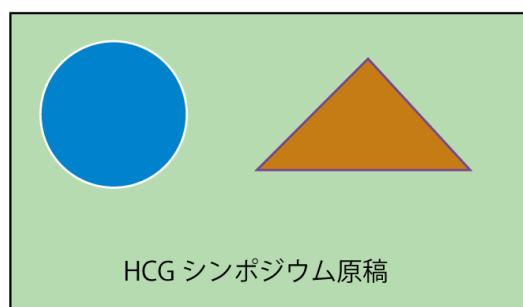


図 1 図キャプションの例

ンドを用いております.

また, 表 1 として, 表を貼り付けています. 表のキャプションは上に置きます.

表 1 ヒューマンコミュニケーショングループ

第 1 種研究会	
ヒューマンコミュニケーション基礎研究会	HCS
ヒューマン情報処理研究会	HIP
メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会	MVE
福祉情報工学研究会	WIT
第 2 種研究会	
発達障害支援研究会	ADD
ヒューマンプロープ研究会	HPB
情報の認知と行動研究会	ICB
魅力工学研究会	AC
コミック工学研究会	CC
第 3 種研究会	
ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会	VNV
リアルタイムコミュニケーション言語研究会	LARC

3. bibtex を使う場合

参考文献リストの作成に bibtex を用いる場合は、同梱した電子情報通信学会和文論文執筆用スタイルファイルのなかの bst ファイルを用いてください。

文 献

- [1] D.E. クヌース, 改訂新版 \TeX ブック, アスキー出版局, 東京, 1992.
- [2] 磯崎秀樹, \LaTeX 自由自在, サイエンス社, 東京, 1992.
- [3] S. von Bechtolsheim, \TeX in Practice, Springer-Verlag, New York, 1993.
- [4] 藤田眞作, 化学者・生化学者のための \LaTeX —パソコンによる論文作成の手引, 東京化学同人, 東京, 1993.
- [5] 阿瀬はる美, てくてく \TeX , アスキー出版局, 東京, 1994.
- [6] N. Walsh, Making \TeX Work, O'Reilly & Associates, Sebastopol, 1994.
- [7] D. Salomon, The Advanced \TeX book, Springer-Verlag, New York, 1995.
- [8] 藤田眞作, \LaTeX マクロの八衢, アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン, 東京, 1995.
- [9] 中野賢, 日本語 \LaTeX 2 ϵ ブック, アスキー出版局, 東京, 1996.
- [10] 藤田眞作, \LaTeX 2 ϵ 階梯, アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン, 東京, 1996.
- [11] 乙部巖己, 江口庄英, \pLaTeX 2 ϵ for Windows Another Manual, ソフトバンク パブリッシング, 東京, 1996–1997.
- [12] ボール W. エイブラハム, 明快 \TeX , アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン, 東京, 1997.
- [13] 江口庄英, Ghostscript Another Manual, ソフトバンク パブリッシング, 東京, 1997.
- [14] マイケル・グーセンス, フランク・ミッテルバッハ, アレキサンダー・サマリン, \LaTeX コンパニオン, アスキー出版局, 東京, 1998.
- [15] ビクター・エイコー, \TeX by Topic— \TeX をよく深く知るための 39 章, アスキー出版局, 東京, 1999.
- [16] レスリー・ランポート, 文書処理システム \LaTeX 2 ϵ , ピアソンエデュケーション, 東京, 1999.
- [17] 奥村晴彦, [改訂版] \LaTeX 2 ϵ 美文書作成入門, 技術評論社, 東京, 2000.
- [18] マイケル・グーセンス, セバスチャン・ラッツ, フランク・ミッテルバッハ, \LaTeX グラフィックスコンパニオン, アスキー出版局, 東京, 2000.
- [19] マイケル・グーセンス, セバスチャン・ラッツ, \LaTeX Web コンパニオン— \TeX と HTML/XML の統合, アスキー出版局, 東京, 2001.
- [20] ページ・エンタープライゼス(株), \LaTeX 2 ϵ マクロ & クラスプログラミング基礎解説, 技術評論社, 東京, 2002.
- [21] 藤田眞作, \LaTeX 2 ϵ コマンドブック, ソフトバンク パブリッシング, 東京, 2003.
- [22] 吉永徹美, \LaTeX 2 ϵ マクロ & クラスプログラミング実践解説, 技術評論社, 東京, 2003.